

交通情報提供によるパークアンドライド促進策に関する研究

名古屋工業大学 学生員 ○奥西 秀春

名古屋工業大学 正会員 藤田 素弘

名古屋工業大学 正会員 松井 寛

1.はじめに

現在、自動車保有世帯の増加、自動車利用の増加に伴い休日の都心では渋滞により都心部の活動が低下している現状である。

そこで本研究では、都心部のイベント情報とともに交通情報をドライバーに提供することによって、どの程度の人が途中の駅でパークアンドライドをして都心へ向かうことにするのか分析するものである。

2.アンケート調査の概要

調査は、平成7年10月29日(日)に都心(栄)の久屋駐車場、エンゼルパーク、若宮パークの3駐車場でアンケート用紙を配布し後日郵送により回収するという方法で実施した。調査項目は、1.個人属性と都心へ来る頻度、2.道路状況及び駐車場利用理由、3.入手したい情報、4.渋滞の程度とパークアンドライドの関係、である。久屋駐車場、エンゼルパークに1000枚ずつ、若宮パークに500枚配布し、回収票は615票で回収率としては約25%であった。

3.アンケート調査の結果

性別は、男性が72%と利用者の大半を占め、年齢は、20代~60代以上までそここの利用が見られる。なかでも30代~40代の人は全体の約半分である54%を占めていた。また一世帯あたりの自動車保有数は1台、2台が多く現在の車社会の裏付けと言えるであろう。また都心へ来るのは、子供や配偶者と来るという回答が多い。以上のことより休日の過ごし方として、家族で都心へ向かいショッピングなどをして家族の結束を充実させるいわゆる家族だんらんの場として都心を利用していることがわかる。

図-1は、都心へ来る頻度を示したものである。これによると自動車で都心へ来るのは、月に1、2回来るという意見が多く見られる。また図-2より、自動車の利用理由は買い物などで荷物が多くなるという回答が多いことがわかる。また、途中の道路状況に関した質問では、習慣的に渋滞していることを知っている

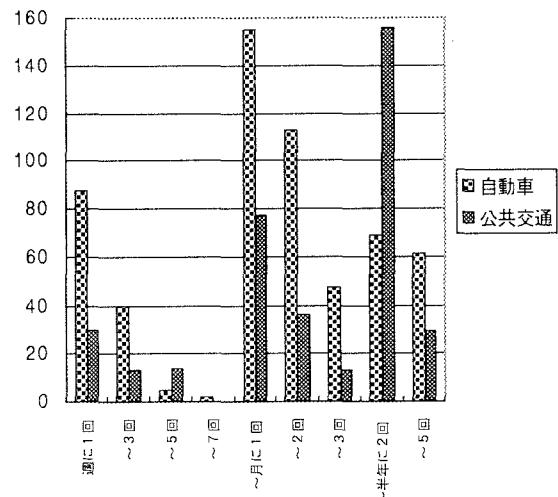


図-1 都心へ来る頻度

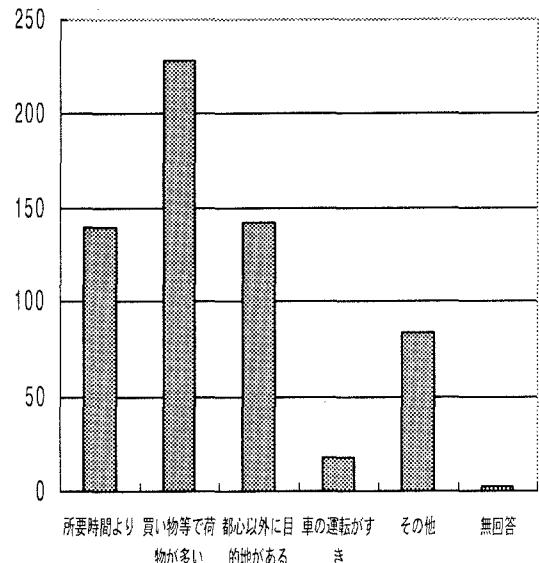


図-2 車の利用理由

という回答が多かった。これらのこと考慮すると次のことが考えられる。つまりこれは、たまに都心を利用する場合において、月に1度や2度の渋滞ぐらいうま我慢できる、という人が休日の都心へ自動車で来ているうちの大半を占めているものと考えられる。このような利用者に対して、交通情報を効果的に提供することによって自動車利用からパークアンドライドによる鉄道利用を促進し、その結果都心の渋滞緩和につながり、都心の活動向上につながるかを以下で考えるものとする。

図一3はドライバーが自宅、車内等で入手したい情報を示したものである。これによると、道路の渋滞、駐車場の混雑状況の情報つまり交通情報が全体の約半分である53%を占めていた。また、交通以外の情報としては、都心部でのイベント情報、バーゲン等のショッピング情報、主な箇所の人出等の実況情報等の都心活動に関する情報が多かった。

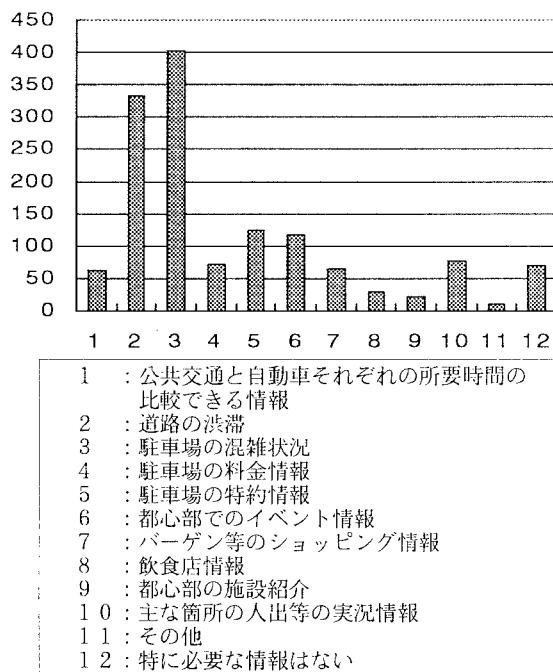
図一4はパークアンドライドに関する考え方を示したものである。この図より今日（今日の平均渋滞時間約15分）より渋滞しているとパークアンドライドを利用する人が多いことがわかる。

図一5では今日より余分に何分渋滞するとパークアンドライドをするのかを示している。これによると、30分程度の渋滞を前もって知ることができればパークアンドライドをして都心へ向かうという意見が多く見られる。やはり渋滞しているとわかっているながら都心へ向かう事には少なからず抵抗があるようだ。この事から、ドライバーが交通情報を手軽にまた詳しく入手することができるのならば自動車利用からパークアンドライド利用に切り替える可能性は少なくないことがわかる。

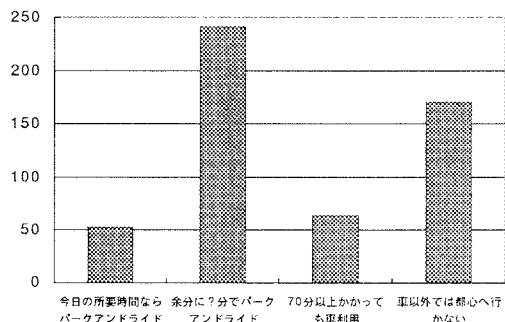
4.おわりに

本研究は、交通情報提供によるパークアンドライド促進策について分析してきたが、交通情報がドライバーのパークアンドライド利用を少なからず促すことがわかった。今後、より詳細に分析していくたい。

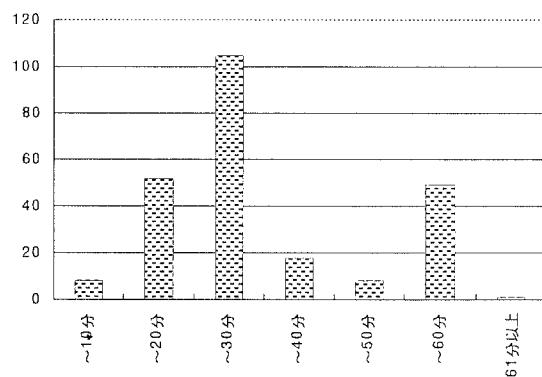
なお本研究の遂行にあたっては、名古屋市計画局街路計画課が主催する都心施設整備に関する研究会のメンバーの協力を得た。ここに感謝の意を表します。



図一3 入手したい情報



図一4 パークアンドライド利用の意識



図一5 余分に何分でパークアンドライドか